



1 進路希望調査（10月）の結果から

3学年については、今回の調査結果が共通テストに臨むにあたって文字通りの第一志望校となります。国公立の分類でみると、国立大177名、公立大64名、私立大31名です。国公立大学志望者が全体の88%を占めます。主な大学では、北海道大4名、山形大10名、東北大15名、福島大51名、茨城大9名、埼玉大17名、千葉大13名、新潟大27名、福島県立医科大30名です。

2学年については、5月の調査に引き続き、東北大志望者が例年よりも少ないのが特徴です。主な大学の内訳は、東北大12名、宮城教育大17名、福島大62名、筑波大11名、埼玉大14名、千葉大13名、新潟大20名、福島県立医科大25名で、私立大志望者は23名です。

1年生については、主な大学の内訳は東北大32名、宮城教育大9名、福島大75名、筑波大9名、埼玉大7名、千葉大17名、新潟大8名、福島県立医科大39名で、私立大志望者は13名です。5月のときよりは大学研究が進んだようで、さまざまな大学名が出てきました。今後も大学・学部について十分に研究を進めてください。

2 学習時間調査（10月）の結果から

単位：時間

	平日	今年度 5月平日	昨年度 10月平日	一昨年度 10月平日	休日	今年度 5月休日	昨年度 10月休日	一昨年度 10月休日
3年	3.55	2.82	3.78	2.74	6.94	4.86	7.23	5.24
2年	1.84	1.93	2.09	3.21	3.17	3.29	3.46	2.13
1年	1.74	2.02	1.88	1.85	3.26	3.61	3.21	3.24

3年生については昨年度までの先輩方と比べても遜色ない数字で、頑張っている様子がみられます。しかし2年生、1年生については、5月の結果と比べると学習時間が減ってきていることが読み取れます。もう少し学習時間を確保してほしいと思います。しかし、次の項目にも書きますが、ただトータルの学習時間を増やすことを目的にするのではなく、1週間単位で満遍なくどの教科も学習するような「学習管理」が必要です。後期中間考査（3年は学年末考査）が近づいていますので、これを機に自己管理に努めてください。学習時間を管理するためのツール（手帳やスマホのアプリなど）も世の中にたくさん出ています。自分に合うものを使ってみるのも良いでしょう。

3 定期考査や外部模試の活用

現在、3年生は毎週のように外部模試を実施しているために、身も心も疲れているかもしれません。しかし、これもあと少しです。この後の模擬試験は、ベネッセ駿台共催マーク（10/29,30）と全統プレ（11/26,27）を残すのみとなりました。最後まで息切れせずに駆け抜けましょう。1、2年生も1年の半分以上が過ぎました。油断していると、あっという間にそれぞれの学年が終わってしまいます。残りの学校生活が学習希薄期間とならないように気を引き締めて過ごしてください。

さて、みなさんは定期考査や模試に対してどのように取り組んでいますか？ 多くの先生方から「定期考査や模試は復習が大切」と言われているはずですが、しかしそれには、事前の目標設定と学習計画がなければ、漠然とした反省にしかありません。「今回のテストに対して、いつから準備をはじめ、毎日どのくらい学習し、何点取ることを目標にする」といったことをしていますか。それがなければ、「この問題が出来なかったけど、ただのケアレスミスだ」や、「全体的にもうちょっと頑張る」等といった反省にしかありません。

みなさんは「PDCA サイクル」という言葉を聞いたことがあると思います。「Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、より向上させていく」というものです。しかし、これを実行している人はどのくらいいるのでしょうか。まず、大きな目標として、自分が目指す大学や学部があります。次に、そこに入るには、どのくらいの偏差値が必要か調べます。そして、その偏差値に到達するために次の模試ではどのくらいの得点を目指すのか。その得点を取るためにはどの分野をどれだけ勉強すればよいか。そういった目標や計画(Plan)を是非立ててください。それでこそ、Do(実行)の後のCheck(評価)・Action(改善)に繋がっていくのだと思います。

4 10月の行事から



(1) 2 学年行事「進路講演会」を実施

10月13日(水)5、6校時の時間に、佐々木敦斗氏(株式会社オーナー執行役員社長)を講師にお招きして「高校2年生の今、進路実現に向けて考えておきたいこと」の演題での講演会が実施されました。自分の経験を踏まえた分かりやすい内容のお話が多く、生徒は真剣な態度で聞いていました。

講演内容は、「今後の社会の変化」についての話から「志望理由書の書き方」や「今後の学習についてのアドバイス」まで、幅広いものでした。

参加した生徒たちは、高校生活の切り替わり時期が来たことを感じとり、大学受験に向けた準備をスタートさせなければいけないと実感したようでした。

(2) 「学問分野別講義」(2 学年)

10月27日(水)5~7校時の時間に実施されました。11の専門分野に分かれての講義でした。心配であった新型コロナの感染状況が落ち着いていたこともあり、予定通り8講座は対面にて、残り3講座はオンラインにての実施でした。

講義をされた大学の先生方は口々に、「橋高生は真剣に聴講していて、とても良かった」とのことでした。生徒の感想としては、「高校では広く浅く学ぶのに対して、大学では自分の興味のある分野を深く探究できると聞いて、大学に行くのが楽しみになりました」

などのポジティブな感想が多く聞かれました。医療分野の義久精臣先生(福島県立医科大保健科学部)による講座では、実習機器を用意していただき、生徒たちが、互いに超音波で血液の流れを確認するという実習に積極的に取り組んでいました。

昨年と今年のオープンキャンパスがほとんどオンラインであったため、2年生にとっては

初めての大学の講義ということもあり、興味深く聴講できたようでした。今後、オープンキャンパスが通常通り再開されたときには、多くの生徒が積極的に参加して、大学の内容を知ってほしいと思います。



エコー検査実習



『福島の地から新しい農学を作る』



『石油資源と国際関係』



『日本の未来を支えるアルミニウム』